

2019/7/7(日)10:30-16:00(受付開始 10:00)

スポーツファーマシストのためのワークショップ

※受講資格:公認スポーツファーマシスト(日本アンチ・ドーピング機構認定)のみ

(ただし、定員に空きがある場合に限り、公認スポーツファーマシスト認定プログラム受講済みの方も受講可)

Episode 7:Real Sports Pharmacist に向けて Part 3

講座情報

「Episode 7:Real Sports Pharmacist に向けて Part 3」

《学習到達目標》

第1部(午前) : アスリートに対する医師の処方薬(処方せん医薬品)やサプリメントによる代表的なアンチ・ドーピング規則違反事例を通して、アスリートに対する薬剤投与の注意点を理解する。

第2部(午後) :本ワークショップでは、次の点を到達目標として進めます。

1. 患者(アスリート)背景を整理できる、2. 治療内容(薬物治療)の確認ができる、3. 問題点を抽出できる、
4. WADC との照合(禁止物質・方法の確認)ができる、5. 代替薬の提案ができる、6. TUE(治療使用特例)申請の支援ができる、7. 相談者・医療者への適切な助言ができる。

「スポーツにおけるチーム医療」

笠師 久美子

いよいよ、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催の年となり、2020 年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控えています。開催地はもとより、すでに事前合宿等が各地で展開されており、疾病や外傷等による国内外の選手が医療機関を訪れる可能性も考えられます。本ワークショップでは、アンチ・ドーピングに留まらず、スポーツ選手の薬物治療を支援するにはどのようにすればよいのか、皆さんと考えながら進めたいと思います。第1部では、医師からスポーツ選手の疾患等について提言頂き、TUE 申請に関する情報提供を致します。第2部では、症例を基に、診療ガイドラインや標準治療を確認しながら、症例解析、処方解析、回答シート作成、TUE 申請体験を行って頂き、スポーツにおける適切で有用な薬物治療について検討致します。

「アスリートにみられやすい内科的疾患」

山澤 文裕

体をいつも鍛えているアスリートは病気とは無縁と思われるが、実は一般人と同じように種々の病気に罹る。その治療において、どうしても禁止薬物や方法を用いざるを得ないこともある。そこで必要なのが、治療使用特例(TUE)についての知識である。本講座においては、TUE 申請についていくつかの例をあげながら、アスリートに対して適切な薬物療法を行うための医学的注意点について提供することとしたい。

「アンチ・ドーピング規則と治療使用特例(TUE)手続きの解説」

鈴木 智弓

アスリートがドーピング禁止物質や禁止方法を治療目的で使用する場合には、世界アンチ・ドーピング規程『治療使用特例(TUE)に関する国際基準』に従い、TUE の審査を経て認められる必要がある。しかし、TUE は、アスリートのみが理解するだ

けで申請できる手続きではなく、必ず医師の協力が必要となる。もし TUE が認められなければ、たとえ治療目的による禁止物質や禁止方法の使用であっても、そのアスリートはアンチ・ドーピング規則違反と判断される可能性がある。本講座では、アスリートを医療の側面からサポートする際に必要となる国内の TUE 手続きとその注意点について情報提供する。

参考資料

- 公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構(JADA) <http://www.playtruejapan.org/>
- World Anti-Doping Agency <http://www.wada-ama.org/>

講演者情報

「スポーツにおけるチーム医療」

笠師 久美子

北海道医療大学薬学部 薬学教育推進講座 特任教授

プロフィール

北海道大学病院薬剤部副薬剤部長、博士(歯学)、日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士(薬剤師)、日本静脈経腸栄養学会学術評議員、日本医療薬学会代議員、日本アンチ・ドーピング機構公認スポーツファーマシスト委員会委員、日本体力医学会健康科学アドバイザー、日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学)、日本バイアスロン連盟理事、日本パラアイスホッケー協会理事、日本自転車競技連盟アンチ・ドーピング委員会・医事委員会委員、日本薬剤師会アンチ・ドーピング委員会委員他。

1989 年日本整形外科スポーツ医学会事務局勤務、1994 年～1996 年日本水泳連盟スポーツ医・科学委員会委員、1998 年冬季オリンピック長野大会 NOC アシスタント(日本選手団医務室付通訳)を経て現在に至る。2018 年平昌オリンピック日本バイアスロン連盟コーチ派遣。

主要著書

「スポーツにおける薬物治療-処方と服薬指導」オーム社

「もっとなっとく使えるスポーツサイエンス、市販薬でもドーピング？」講談社

「アスリートにみられやすい内科的疾患」

山澤 文裕

丸紅健康開発センター

日本陸上競技連盟医事委員会

プロフィール

医学博士、1981 年慶應医学部卒業、1986 年慶應大学院修了(呼吸器内科学)、1986 年慶應医学部助手。1991 年より丸紅東京本社診療所所長、丸紅(株)専属産業医として勤務し、海外を飛び回る商社マンの健康管理を行いつつ、1997 年日本陸連医事委員長に就任。2000 年シドニーオリンピック、2003 年パリ世界陸上のチームドクターなど、陸上競技のトップアスリートの健康管理、障害予防、アンチ・ドーピング活動を行っている。国際陸上競技連盟医事アンチ・ドーピングコミッション委

員およびヘルス&サイエンスコミッション委員、アジア陸上競技連盟医事委員として、2006年世界ジュニア陸上、2006、2010、2014 アジア大会、世界ハーフマラソン選手権、世界クロスカントリー選手権、ワールドカップ競歩などの医事アンチ・ドーピング代表を務める。日本臨床スポーツ医学会理事、東京マラソン財団理事・医療救護検討部会委員長、JOC アンチ・ドーピング委員会委員、日本アンチ・ドーピング機構理事、日本臨床スポーツ医学会理事としても活躍中。

主要著書

スポーツにおける薬物治療-処方と服薬指導 オーム社

IAAF Competition Medical Guidelines A practical Guide January 2013 First Edition

クリーンアスリートをめざして 2015 日本陸連 2015年3月

ヘルシーアスリートをめざして 2014 日本陸連 2014年3月

ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療 改訂第2版 南江堂

「アンチ・ドーピング規則と治療使用特例(TUE)手続きの解説」

鈴木 智弓

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 教育・情報グループ マネージャー

プロフィール

2005年武庫川女子大学薬学部卒業、同大学大学院薬学研究科入学、2007年武庫川女子大学大学院薬学研究科修士課程修了、(公財)日本アンチ・ドーピング機構(非常勤)、2011年筑波大学スポーツ Research & Development コア研究員、2013年早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士(スポーツ科学)取得、(公財)日本アンチ・ドーピング機構 教育・国際部 教育情報グループマネージャー、現在に至る

主要著書

アンチ・ドーピングの教育活動とドーピングの事例分析, 2017年

医療からアンチ・ドーピングのサポート体制構築を試みる-スポーツファーマシスト-, 2017年

ドーピング禁止物質の確認方法とTUE申請の注意点, 2016年

定員

60名